

326
117

東北振興會調查報告 甲部第二號

農業



始





余や、東北に生まれ、東北地方の不振を嘆ずること茲に年あり、然るに曩日余が敬慕する、澁澤男爵益田孝兩先生より、東北振興會の爲に東北地方の調査を爲すべく委囑せらる、余や淺學非才敢て當らざるを以て固辭せしと雖も、兩先生よりの懇篤なる諭言と、余が東北人たるの立場よりして、之を固辭するの禮に非らざるを信じ、大日本蠶絲會頭の許可を得て、余が執掌する大日本蠶絲會々務の傍之に従ふことゝなせり、而して爾來宮下辰雄氏の熱心なる助力を得て、東北地方に於ける各般の調査を行ふ、然れども材料不備殊に急速を貴びしを以て、粗漏杜撰の責は免れざる所なり、今調査の結了せし方面より順次剗削に附して參考に供し、敢て大方の指摘を待て訂正する



大正
4. 10. 18
内交

所あらんとす、幸に示教を吝むなからんことを、終に臨み資料
を供給せられたる官廳及各位に對して深く謝意を表す

大正四年九月

吉池慶正

東北振興會調查報告目次

農業	一
第一 農業戸數	一
(一) 現住戸數と農業戸數との比較	一
(二) 自作農と小作農との比較	三
(三) 耕地の廣狹に依り區別せる農業戸數	六
第二 農地	一三
(一) 廣義の農用地	一三
(二) 狹義の農用地	一五
(三) 耕地の區別	一八
(四) 耕地自作小作別	二〇
(五) 開墾適地	二二
第三 耕地整理	二四
第四 肥料	二八

(一) 堆肥	二八
(二) 肥料營業	二九
(三) 金肥消費高	二九
第五 牛馬の利用	三二
第六 農産	三七
(一) 米作改良	三七
(二) 米作改良	四三
(三) 米作改良	四三
(四) 米作改良	四三
(五) 米作改良	四三
(一) 米作改良	四三
(二) 米作改良	四三
(三) 米作改良	四三
(四) 米作改良	四三
(五) 米作改良	四三
(イ) 大豆、小豆、粟、稗、蕎麥	四九
(ロ) 馬鈴薯	五九
(ハ) 穀菽雜類	五八
(ニ) 蔬菜類	五九
(四) 特用農産物	六三
(五) 果實	六六

東北振興會調査報告

農業

第一 農業戸數



(一) 現住戸數と農業戸數との比較

農業の大勢を調査するに當り看過すべからざるものは農業を營爲する戸數にして其多少は以て農業の消長を卜するに足るべし即ち此に東北地方に於ける最近五年間の現住戸數と農業戸數との比例を示せば左の如し。

現住戸數と農業戸數との比較

年次	現住戸數	農業戸數	百分比例
大正二年	八三七、九二二	五四二、四二六	六四、七三
大正元年	八二四、七二六	五四一、九六四	六五、七一
明治四十四年	八一六、一一二	五四〇、六八六	六六、二五
明治四十三年	八〇六、一六七	五三七、六三六	六六、六九

此表の示す所に依れば農業戸數遞減の傾向あり是れ其原因一にして足らざるべしと雖も一面に於て交通機關の發達及社會の刺戟を受くる結果として工業の進運を促し工業の進運に伴ひ之に轉じたる者あるに依るべく此等の現象は特り農業のみに捕はれず汎く東北全般の上より達觀すれば寧偏農状態を漸脱する一徴として喜ぶべきに似たりと雖も他の一面を顧れば凶作不況等相繼ぎ祖先傳來の耕地に別れ辛ふじて鑛夫として鑛業に轉ずる者も寡からずと聞かば座に悠然の情に禁へざるものあり今左に東北各地方別とせる現住戸數と農業戸數との比較を示さん。

現住戸數と農業戸數の比較 (大正二年末現在)

東 北	現 住 戸 數	農 業 戸 數	百 分 比 例
全 國	八三七、九二二	五四二、四二六	六四、七三
九 州	九、五〇〇、七一〇	五、四四三、七一九	五七、三〇
	一、二七一、三二八	八七七、八七五	六九、〇五

本表に依りて之を見れば農業者の多きは東北九州に及はずと雖も全國より農

業地たるは争ふべからざるの事實なり更に之を東北各縣に就て内容を調査すれば左の如し。

東北六縣現住戸數と農業戸數との比較

	現 住 戸 數	農 業 戸 數	百 分 比 例
福 島 縣	一八二、五九九	一二三、九一五	六七、六八
宮 城 縣	一四六、二一一	八七、九七七	六〇、一七
岩 手 縣	一一一、二一一	九三、五八六	七七、二〇
青 森 縣	一一四、九二一	七〇、六三一	六一、四六
秋 田 縣	一三六、〇一三	七九、五二三	五八、四六
山 形 縣	一三六、九六七	八六、七九四	六三、三六

右表の示す所に依れば岩手は農業戸數最も多く秋田は最も少しとす。

(二) 自作農と小作農との比較

英國の經濟學者アーサー・ヤング氏は所有權の魔力は砂石を化して黄金と爲すと謂へり是れ實に吾人を欺かざるの金言にして農業の經營は之を經營者の經濟上より之を觀るも又國民經濟上より之を替ふるも將た又社會政策上より之を顧るも自作農を以て最も適當のものと爲すは經濟學者間の所論一致する所なり由

論じて曰く日本に發達せし小作法は決して農業の進歩を助けず却て之を妨ぐるものなりとす此小作農業の弊たる地租苛重なるの害よりも甚し要するに日本の小作農業を以て獨逸或は英國の小作農業に比するに其間管に霄壤の差あるのみならず即ち英國或は獨逸に於ては固定資本と流動資本と二途に分擔せしむることと換言すれば資力少き資本を擧げて營業資本に供し自家一己の力に依りて維持し得るより一層廣大の土地を供用し農業上に多く資本を放下せしむるを以て目的とす日本の小作農業は全く之に反し在來の營業資本をも減殺するものとす何となれば原來小地主の零落せし貧困者多きに居ればなり而して最も憂ふべきは既に全耕地の三分の一は小作地となり小作者の數は農家の全數の二割二分強に居り尙頻に増加するの傾向ある一事なり是豈注意せずして可ならんや蓋し農業にして斯の如き輩の掌裡にある以上は果して進歩すべきや否やは吾人の寒心に堪へざる所なりと吾人は願て其歎を同ふす實に適當の方法を用ゐて自作農の小作農に墜落するを防止するは方今の一大急務にあらざるなきを得んや。

(三) 耕地の廣狹に依り區別せる農業戸數

元來日本は地形及農業經營の關係上耕地面積極めて小なり米國の如き新國にして粗大農業の行はるゝ地方とは頗る其揆を異にすれども歐洲の如き舊國に於ても日本の如き耕地の狭小なるは殆んど絶無なりと云ふ田中博士の調査に依れば

獨逸

農家總戸數に對する割合

經營面積	農家總戸數に對する割合
一町歩未満(一ヘクタールは約我一町歩)	四七六
一町歩以上十町歩未満	四〇二
十町歩以上百町歩未満	一一八
百町歩以上	〇〇四

佛蘭西

農家總戸數に對する割合

經營面積	農家總戸數に對する割合
一町歩未満	三九二
一町歩以上十町歩未満	四、五九
十町歩以上四十町歩未満	一、二七

四十町歩以上

〇、二四

八

英吉利

經營面積

農家總戸數に對する割合

五英町未滿我約二町三畝未滿

二、二七

五英町以上五十英町未滿我約二十町三反未滿

四、五三

五十英町以上三百英町未滿我約百二十二町未滿

二、八四

三百英町以上我約百二十二町以上

〇、三六

右の如く獨逸にては一町歩未滿の耕地を經營する者四割七分六厘一町歩以上の者五割二分四厘を占め佛蘭西にては一町歩未滿の經營者三割九分二厘にして一町歩以上の者六割八厘英吉利は二町三畝未滿の者二割二分七厘夫れ以上の者七割七分三厘の割合なり歐洲に於て最も小農地方と稱せらるゝ白耳義に於てすら遙に本邦の耕地より其區劃大なりと云ふ。

翻て社會の趨勢を觀察すれば勞銀は漸次昂騰の傾向あり故に成るべく人力を節約し之を畜力又は器械力に代はらしむるを要す此場合に於て農場面積の狭小

なれば之を利用するを得ざるの不得策あり更に一步を進て本邦農業の實際を見れば勞働を人力に代て他を用るを得ざる不便の如きは抑も枝葉の問題なりとす何となれば之に依りて生活をなし之に頼りて衣食を求むる唯一の基礎は此狹隘なる農場に在るを以て之より生産する貨物にては其收穫量如何にも貧弱にして到底一家の生計を營むことを得ざればなり是れ實に農家疲弊農村頽廢の聲起る所以にして既に一家の經濟支持せられざる境遇にある者焉ぞ農業の改良に心を用ゐるを得んや是れ本邦農業經營上大に猛省せざるべからざる所なり今左に農耕地所有の廣狹と農業戸數の割合を示さん。

農耕地所有の廣狹と農業戸數歩合

	五段未滿	五段以上	一町以上	二町以上	三町以上	五町以上
東北平均	二八、四八	二五、三五	二四、〇八	一三、〇四	七、〇八	一、九七
全國平均	三六、七九	三三、三六	一九、八三	六、〇四	二、七五	一、二三
九州平均	三六、六四	三三、八四	二〇、四六	六、〇四	二、三四	〇、六八
福島縣	二五、七七	二六、二八	二八、一一	一二、九〇	五、七三	一、二一
宮城縣	三一、四四	二五、七四	二〇、六八	一一、八九	六、八八	二、七三
岩手縣	三一、〇一	二六、九四	二三、一〇	一一、三三	五、五三	二、〇九

九

青森縣	二九、四八	二五、四〇	二二、六五	一一、八〇	六、八二	二、八五
秋田縣	二六、二四	二三、八八	二五、三九	一五、一六	七、四八	一、八五
山形縣	二八、八四	二四、一四	二三、六六	一三、九五	七、五四	一、八七

更に其の實數を擧ぐれば左の如し。

農耕地所有の廣狹と農業戸數

(大正二年十二月末日現在)

東 北	五段未滿	一、五三六戸	一、八二九戸	一、三三七戸	七、一三三戸	三、六六〇戸	一、〇六四戸	五、四三三戸
	五段以上	一、八二九戸	一、三三七戸	一、〇六四戸	三、八三三戸	一、〇六四戸	六、七三三戸	四、四三三戸
全 國	計	三、三六五戸	三、二〇六戸	二、四〇一戸	一〇、九六六戸	四、七二四戸	七、七九七戸	九、八六六戸
九 州	計	三、三六五戸	三、二〇六戸	二、四〇一戸	一〇、九六六戸	四、七二四戸	七、七九七戸	九、八六六戸
福 島 縣	計	三、三六五戸	三、二〇六戸	二、四〇一戸	一〇、九六六戸	四、七二四戸	七、七九七戸	九、八六六戸
宮 城 縣	計	三、三六五戸	三、二〇六戸	二、四〇一戸	一〇、九六六戸	四、七二四戸	七、七九七戸	九、八六六戸
岩 手 縣	計	三、三六五戸	三、二〇六戸	二、四〇一戸	一〇、九六六戸	四、七二四戸	七、七九七戸	九、八六六戸
青 森 縣	計	三、三六五戸	三、二〇六戸	二、四〇一戸	一〇、九六六戸	四、七二四戸	七、七九七戸	九、八六六戸
秋 田 縣	計	三、三六五戸	三、二〇六戸	二、四〇一戸	一〇、九六六戸	四、七二四戸	七、七九七戸	九、八六六戸
山 形 縣	計	三、三六五戸	三、二〇六戸	二、四〇一戸	一〇、九六六戸	四、七二四戸	七、七九七戸	九、八六六戸

尙又之を農耕地作付反別の方面より觀察すれば左の如し。

農耕地作付反別の廣狹と農業戸數歩合

東 北 平 均	五段未滿	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
全 國 平 均	五段未滿	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
九 州 平 均	五段未滿	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
福 島 縣	五段未滿	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
宮 城 縣	五段未滿	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
岩 手 縣	五段未滿	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
青 森 縣	五段未滿	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
秋 田 縣	五段未滿	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
山 形 縣	五段未滿	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三

更に之が實數を示せば左の如し。

農耕地作付反別の廣狹と農業戸數

(大正二年十二月末日現在)

東 北	五反未滿	一、五三六戸	一、八二九戸	一、三三七戸	七、一三三戸	三、六六〇戸	一、〇六四戸	五、四三三戸
全 國	五反未滿	一、八二九戸	一、三三七戸	一、〇六四戸	三、八三三戸	一、〇六四戸	六、七三三戸	四、四三三戸
九 州	五反未滿	一、八二九戸	一、三三七戸	一、〇六四戸	三、八三三戸	一、〇六四戸	六、七三三戸	四、四三三戸
福 島 縣	五反未滿	一、八二九戸	一、三三七戸	一、〇六四戸	三、八三三戸	一、〇六四戸	六、七三三戸	四、四三三戸
宮 城 縣	五反未滿	一、八二九戸	一、三三七戸	一、〇六四戸	三、八三三戸	一、〇六四戸	六、七三三戸	四、四三三戸
岩 手 縣	五反未滿	一、八二九戸	一、三三七戸	一、〇六四戸	三、八三三戸	一、〇六四戸	六、七三三戸	四、四三三戸
計	五反未滿	三、三六五戸	三、二〇六戸	二、四〇一戸	一〇、九六六戸	四、七二四戸	七、七九七戸	九、八六六戸

青森縣	二五三六	一七〇七	一六七二	五〇六	三二八	七五	六〇	六三六
秋田縣	二九七七	一七六九	一四〇〇	四六一	三六六	一四三	一四	七二五
山形縣	三〇〇六	一六二八	一六八八	五三〇	三〇八	九三	六	七四三

一一

此等諸表の示す所に據り考察すれば何れの方面より觀るも耕地狹隘にして如何に集約農法を營み耕耘を精ふし肥培を懇にするも土地報酬漸減の法則に制せられ充分なる収益を見ることを能はず憐むべき經濟狀態を現出するは洵に止むを得ざるなり。

第二 農用地

由來東北は氣候の關係上或る一小部分を除く外二毛作を行ふこと不可能にして且つ主たる米作の收穫率他の地方に比し遙に寡く農業經營上に種々の缺陷を存す此の缺陷を補填する爲に比較的多くの農用地を要するなり輒ち田地の如き收穫率寡きが故に多くの面積を耕耘するを要し多くの面積を耕耘するが故に従て之に消費する肥料を多く要するは必然の理なり而して東北は肥料の大部を自家生産の堆肥を以てせるが故に草刈地として亦多くの面積を要するなり此の故に東北農業經營の狀態を知るに單に耕地面積の大小のみを以て之を比較するは妥當を缺くの嫌あれば此には廣義の農用地と狹義の農用地との二に區別し比較を試みむとす即ち前者は直接生産地たる耕地及間接生産地たる林野を指示し後者は直接生産地たる耕地のみを指示するなり。

(一) 廣義の農用地

東北六縣に於ける耕地林野の總面積は二百五十二萬六千餘町步にして農業戸

數一戸平均反別は四町六反六畝歩を示し之を全國及九州の其れに比するに全國は二町七反五畝歩九州は一町九反三畝歩にして東北地方の一戸當農用地の著しく多きことを知ると同時に其の經營の奈何に疎放的状态にあるかを推知するを得べし今東北六縣と全國及九州との農用地面積を比較すれば左の如し。

農用地面積比較 (大正二年十二月末日現在)

東 北	全 國	九 州
總 面 積	二、五二六、三四六、八	一四、九五二、二四三、九
一戸平均面積	四、六六	一、九五

更に之を各縣別に示せば左の如くにして最多は岩手縣最寡は宮城縣なり。

東北六縣農用地面積比較

福 島 縣	宮 城 縣	岩 手 縣	青 森 縣	秋 田 縣
總 面 積	五二〇、四三六、〇	三二一、〇五五、一	六九五、二四四、七	三〇八、八三三、五
一戸平均面積	四、一九	三、六五	七、四二	四、三七

山 形 縣

三四七、七八九、八

四、〇一

(二) 狹義の農用地

東北六縣の民有租地反別と耕地反別の割合と全國及九州の其れと比較すれば左の如くにして東北は他の地方に比し耕地歩合著しく寡く未耕地の多きことを知るべし。

民有租地と耕地の歩合 (大正二年十二月末日現在)

東 北	全 國	九 州
民有租地反別	二、五六八、四六四、一	一四、八三九、四二六、二
耕地反別	八三一、五二一、一	五、七九五、五二八、二
百分比例	三二、三七	三九、〇五

元來我國は東北と謂はず九州と謂はず全國を擧げて未耕地多く従つて耕地面積の歩合は之を歐洲の農業經營地の實況に比すれば甚しき懸隔あり即ち伊太利は七六%白耳義は七三%佛蘭西は六九%獨逸は六四%埃太利は六一%にして尙ほ此の外に多少の休耕地をも存する狀況なるに替ふれば如何に歐洲各國は耕地面積多大にして従て生産力に富むかを類推するに足るべし然かも耕地面積少き

本邦に於て東北の如きは之を全國に比するも九州に比するも尙未だ遙に及ばざるの狀態に在るは顧て忸怩だらざるを得ず故に將來大に之が開拓に励めざるべからざるなり然らば現今東北地方に於ける耕地の増加率は他に比し奈何なる程度にあるか左に之か累年比較を試みむとす。

耕地反別累年比較

年	全 國		東 北	
	全 國	東 北	全 國	東 北
大正二年	五、七九五、五二八 ^町	八三一、五二一 ^町	一〇三	一〇一
大正元年	五、七五九、一〇〇、二	八二七、一〇〇、九	一〇三	一〇〇
明治四十四年	五、六九六、九〇四、〇	八二〇、九三四、九	一〇一	九九
明治四十三年	五、六五二、六六二、六	八二二、五一二、七	一〇一	九九
明治四十二年	五、六一七、六三六、五	八二四、九七一、八	一〇〇	一〇〇

明治四十二年を一〇〇とせる累年の指数

之に依りて見れば東北地方の耕地増加率は全國平均率に比して低劣なること明かにして未耕地開墾事業の進捗せざると思半に過ぐるものあり之れ東北開發上寔に閉却すべからざる事項に屬するなり。

更に農業戸數一戸平均の農地反別に就きて觀るに左の如き比較を示す。

農業戸數一戸當耕地段別

東北平均	一、五三 ^町
全國平均	一、〇六
九州平均	一、〇六

計數上の絶對的比較に於ては東北は全國及九州に比し一戸平均四反七畝歩多きことを示すと雖も翻て耕地の生産價値を打算して比較を試みむか全國及九州の平年作一反歩平均の米の收穫高は一石七斗餘なるに東北六縣の其れは僅に一石四斗餘に過ぎず又他の畑作に於ても嘗に二毛作の不可能なるのみならず一毛作すら收穫率の寡きこと著しきものあるに譬ふるときは一戸平均四反七畝歩の較差は決して多しとなすに足らず今東北六縣の民有々租地と耕地との歩合及耕地累年比較を各縣別に示せば左の如し。

東北六縣民有々租地と耕地の歩合 (大正二年十二月末日現在)

縣	民有々租地反別	耕地反別	百分比例	農業戸數一戸當耕地反別
福 島 縣	五二七、八三八、三	一八三、七八六、八	三四、八二	一、四八

右の表に依りて之を見れば秋田縣の農業者は最も多くの耕地を有し宮城縣は最も寡き割合なり。
更に東北各縣に於ける累年耕地面積を掲げて参照となさん。

東北六縣耕地面積累年比較

	大正二年	大正元年	明治四十四年	明治四十三年	明治四十二年
宮城縣	三二七、九七七、三	一三三、七〇七、一	三七、七二	一、四一	一、四一
岩手縣	七〇一、九一五、三	一四一、四二三、六	二〇、一五	一、五一	一、五一
青森縣	三一四、九〇〇、八	一一五、八四四、四	三六、八八	一、六四	一、六四
秋田縣	三四二、三六四、六	一三四、一二〇、〇	三九、一七	一、六九	一、六九
山形縣	三五三、四六七、八	一三二、六三九、二	三七、五三	一、五三	一、五三
計	八三一、五二一、一	八二七、一〇〇、九	八二〇、九三四、九	八二二、五一二、七	八二四、九七一、八

(三) 耕地の區別

耕地中田畑の割合を知るは農業經營狀態を觀察する上に於て又無用の業に非ざるべし今之を比較するに左の如き差を見る。

耕地中田畑の歩合

	田	畑
全國	五四、四八	四五、五二
九州	四六、八七	五三、一三
東北	五九、〇〇	四一、〇〇

輒ち東北は田にありては最も多く畑にありては最も寡く田畑孰れも全國平均歩合とは略ぼ接近率なるも九州の其れに比すれば著しき懸隔あり東北地方が將來耕地の擴張を企圖する上に於て田に重きを置くか畑に重きを置くかは素より土壤水利等の適否に考察して定むべき事柄に屬すべしと雖も右の比較の如きも看過すべからざることにあらざるなきか更に東北各縣別の田畑歩合を示せば左の如し。

東北六縣耕地中田畑歩合

宮城縣	五三、一三	四六、八七
岩手縣	五三、一三	四六、八七
青森縣	五三、一三	四六、八七
秋田縣	五三、一三	四六、八七
山形縣	五三、一三	四六、八七
計	五三、一三	四六、八七

宮城縣	六七、二一	三二、七九
岩手縣	三六、八八	六三、一二
青森縣	五二、五四	四七、四六
秋田縣	七四、九五	二五、〇五
山形縣	六六、五七	三三、四三

(四) 耕地自作小作別

自作農と小作農との比較に就きては前章に於て之を擧示したるを以て此には耕地に於ける自作小作の割合に就きて比較を試みむとす輒ち東北六縣と全國及九州の各平均は左の如し。

耕地自作小作歩合

東北	八三、五二、一	四八七、〇五四、四	三四四、四六六、七	五八、五五	四一、四五
全國	五、七九五、五二八、二	三、一五六、五四六、三	二、六三八、九八一、九	五四、四七	四五、五三
九州	九一、三〇〇、四、六	五二八、三七三、一	三八四、六三一、五	五七、八七	四二、一三

前に農業戸數を説明するに當り東北地方は全國よりも亦九州よりも自作農の數小作農に優ることを擧げたり今此表を見るも同一傾向あるは當然の理なりと謂ふべし、更に東北各縣の其れを比較すれば左の如し。

福島縣	耕地反別	自作地	小作地	自作地	小作地
宮城縣	一八三、七八六、八	一二四、七六三、一	五九、〇二三、七	六七、八八	三二、一二
岩手縣	一二三、七〇七、一	六五、七二一、七	五七、九八五、四	五三、一二	四六、八八
青森縣	一四一、四二二、六	九三、八三九、九	四七、五八三、七	六六、三六	三三、六四
秋田縣	一一五、八四四、四	六五、三五七、七	五〇、四八六、七	五六、四一	四三、五九
山形縣	一三四、一〇〇、〇	六四、六一九、三	六九、五〇〇、七	四八、一八	五一、八二
	一三二、六三九、二	七二、七五二、七	五九、八八六、五	五四、八五	四五、一五

東北六縣中宮城、秋田の二縣は他の四縣に比し小作農の多きことは既に記示したる所なるが即ち此の表の示す所も亦同軌を辿り殊に秋田縣の如き小作地五一%強を占むるの状況にあり更に之が累年の傾向に就きて見むか左の如き比較を表はし福島縣を除くの外自作地減少の傾向あるを認む是れ東北農業の將來に探りて甚た痛歎に堪へざる所なり。

東北六縣耕地自作小作歩合累年比較 (自作地一〇〇に付き小作地)

福島縣	宮城縣	岩手縣	青森縣	秋田縣	山形縣
大正二年	四七	八八	五一	七七	八二
大正元年	四七	八八	五一	七四	八二
明治四十四年	四七	八四	四八	七二	八一
明治四十三年	四七	八三	四九	七二	七八

(五) 開墾適地

東北地方に於ける國有、民有及御料地の總面積は四百九十七萬五千町歩餘を有し、其中現在の耕地面積は八十三萬一千町歩餘にして、總面積に對し僅に一割六分七に過ぎずして、即ち現在の未耕地は四百十四萬四千町歩餘の面積を存し、此の未耕地中には植林、放牧、採草等に支障を及ぼさざる範圍に於て耕地に開墾するに適する土地尠なからざるは疑を容れざるも、未だ開墾適地に就きては各縣悉く調査を了はらざるものゝ如く全般に涉りて之を知ること能はざるは吾人の甚だ遺憾とする所なり、今既に開墾適地の調査を試みたる青森、山形の二縣に就きて見るに、青森縣は二萬一千六百十五町歩、内、民有地一萬一千五百九十五町歩、國有地九千二百町歩を算し、民有地は田三割、畑七割、國有地は田二割、畑八割の割合なりと云ひ、山形縣は民有國有を併せて一萬九千五百五十町歩を算し、田三割、畑七割の割合なりと云ふ、又岩手縣に於ては傾斜十五度以下の未耕地約五萬町歩を存すと曰へり、素より開墾の適否は單に傾斜の高低のみに依りて卜することを得ず、地味の良

否交通の便否水利の如何に依つて果して耕地に適するや否やを觀るべくして徒らに概測するを許さずと雖も之を如上の見込調査に依れば、青森縣の可耕地は現耕地の約一割八分、山形縣は現耕地の約一割五分に當れるなり、今假りに東北六縣を通じて現耕地の平均一割の開墾適地を有するものとせば、即ち約八萬五千町歩の耕地を増加することを得べし之れ極めて概算的の測定なりと雖も更に各縣に於て精密なる調査を遂ぐるに於ても右の概算的測定より下るが如きことなきは東北地方を踏破したる者の首肯する所なり。

東北六縣に未耕地の存すること夫れ斯くの如くにして將來開發の餘地頗る多きを知るべし、然れども東北現時の情勢たる資本の供給を充足すること能はず、竟に此の天與の寶庫を開きて國家の福利を増進すること克はざるの境域に瀕せり、故に此の缺陷を補足すべき施設を企劃し之が開拓を遂行するは寔に東北の一大福音たると同時に又國家の重要な責務たるを信ずるなり。

第三 耕地整理

東北に於ける耕地の區劃は概して狭小且つ不整なるもの多し故に耕耘は勿論灌漑排水等に不利尠なしとせず殊に畜耕を行はんとするには極めて不便を感ず又林野の開墾、沼池の利用等未耕地の開拓を要するもの頗る多しされば耕地整理は東北に於て最も發達せしむべき事業なりとす今東北地方に於ける耕地整理の状況を見るに東北發展の爲最も急務と認むる未耕地の開拓閑地の利用の如きに至りては未だ殆んど指を染めたる者之れ無きもの、如し從來施行したるもの、多くは既耕地就中田地の整理に止まるもの、如し左に之か概數を掲げて他地方との比較を試みんか。

耕地整理施行地 (大正二年八月末日現在)

地 區 數	施行地面積	耕地面積一〇〇に付
東 北	一、〇五一	一一、七七
全 國	五、三三二	五、四六
九 州	一、四〇一	六、三九

之に依れば東北は他の地方に比し施行歩合に於て優れるを知ると同時に其の施行すべき土地の多きことをも推知し得べし而して東北地方に於ても未だ一般に同事業の發達を見るに至らず今之を各縣別に示せば左の如し。

東北六縣耕地整理施行地各縣別 (大正二年八月末日現在)

地 區 數	施行地面積	耕地面積一〇〇に付
福 島 縣	四五五	一一、三七
宮 城 縣	三二〇	二六、九〇
岩 手 縣	四六	三、八〇
青 森 縣	二九	一、四三
秋 田 縣	一一八	一一、九四
山 形 縣	九三	一四、五二

六縣中施行歩合の最多は宮城縣にして山形、秋田、福島の三縣孰れも耕地面積の一割以上に上り青森、岩手の二縣は遙かに相及ばざるを見る。

抑も東北の耕地整理は最近十年來の事業にして福島縣の如き明治三十八年の凶作救濟事業の一として約十八萬圓の縣費補助を與へて縣農會をして専ら之が督勵の衝に當らしめ約一萬五千町歩の整理を施行すべき計畫を樹て之が實行を

見るに至り宮城縣に於ても明治三十五年及明治三十八年の凶作救濟事業として前後一萬六千餘町歩の整理を行ひたる等其の發達の動機たるや主として凶歉に處する應急の生業扶助の方法より胚胎したるに外ならずして之れ所謂禍を轉じて福と爲せるもの凶作も亦半面に於て農業の進歩を促がすに與つて力ありと謂ふべし。

かゝる動機に依りて東北の耕地整理は漸次發達の氣運に向へ今や漸く同事業の有益なることを汎く知るに至りしと雖も資金の缺乏は往々事業の進展を阻止せむとするの状況にして起業者の等しく困難を訴ふる所なり而して又現今東北地方に於て耕地整理に對し數々批難の聲を聞くは果して何に依るか蓋し其原因一にして足らざるべしと雖も設計方法の適切を缺くが故に施行に際し齟齬を生ぜるもの、整理費の豫定以上に増嵩し得失相償はざるもの、事業が土工的に偏し農業的施設と相容れざるもの等其の批難の要點なるもの、如し元來耕地整理なるものは農業改良の先驅にして此の先驅の完成を待つて始めて始めて農業の改良を期すべきなり然るに此の先驅にして批難ある此の如しとせば大に警戒を加ふべきなり。

り。

更に整理の經費に就きて見むか地區總面積に對する一町歩當豫算額は全國平均百六十圓九州平均は二百九十四圓にして東北平均は九十四圓なり又地區内田畑面積に對する一町歩當豫算額は全國平均二百圓九州平均は三百九十圓にして東北平均は百四十圓なるを以て東北は他の地方に比すれば總面積に於ても田畑面積に於ても低廉なり然れども東北六縣中青森縣に於ては田畑一町歩當二百五十圓を要し全國平均よりも高率を示せり、ゴルトツ氏の調査に依れば獨逸の耕地整理費用は一町歩に對する平均經費を五十マルクとせば寧ろ高きに過ぐるも低きに過ぐることもなかるべしと云ふ獨逸と日本とは地形を異にし事情を異にし方法を異にすれば直に此の費用の低廉なるを見て日本の耕地整理費用の高きを訴ふるは或は其の當を得ざるべきも其の間甚しき徑庭あり又以て他山の石と爲すを要す況んや東北地方に於ては一層此の點に注意を拂ふべし。

第四 肥料

(一) 堆肥

堆肥は東北地方に於ける主要肥料にして之があるが爲に農業經濟の調和を保てると謂ふも敢て失當ならず此の故に東北各縣を通じて堆肥舎建設の普及に努め製造方法の改良を奨励しつつありと雖も未だ汎く實行を見るに至らず其の製造方法に於て將た又管理方法に於て不合理の取扱を爲すもの尠なからず將來一段の進歩を圖らざるべからざるなり又堆肥の生産に牛馬を利用することは從來能く行はるゝも養豚の如きは殆んど行はれざる狀況なるが此等も將來大に奨励するを有利とすべし而して堆肥と密接の關係ある草刈地の如きも或は濫刈に過ぎて生育を妨げ或は管理を放任して荊蒺の蔓衍に委するものあり延いて草刈地の減縮を來たす懸念なき能はず是れ寔に土地の利用上改善を要すべき事に屬し東北地方の林野の實況を知るものゝ等しく首肯する所ならん若し夫れ東北の農家が此の點に注意を拂ふに於ては堆肥の原料は永遠に缺乏を告ぐる虞れなかるべし。

(二) 肥料營業

金肥の需用累加するに伴ひ各縣肥料營業者の増加を見るに至れるも肥料の製造額は著しき消長なきものゝ如く唯だ輸入販賣高のみ増加の傾向あり今營業者及肥料製造額の三箇年比較を示せば左の如し。

	肥料製造業者	肥料製造額	肥料販賣業者
大正二年	二、六三一	六七九、五六五	三、三三九
大正元年	二、六〇二	七四二、七〇四	三、二一〇
明治四十四年	二、五〇四	七四二、五二二	二、九五八

東北地方に産出する肥料の主なるものは魚類粕及菜種油粕、荏油粕等の漁場及製油業者等か副産物に過ぎずして未だ大規模の企業を見るに至らず將來漁獲物等を原料とし大に肥料の生産額を増加し地方の需用に應ずると共に進んで之を他に廣く輸出すべきなり。

(三) 金肥消費高

農業組織の變遷と勞力需給の關係等に依り所謂金肥の消費を増加することは

必至の趨勢にして東北地方も亦之と其の揆を一にし輒ち明治四十二年は二百萬圓なりしが大正三年には六百萬圓に上り年々増加する狀況なり元來農業智識の發達に従ひ農具の發明耕種法の改良等に依り農民生産を増加すべく殊に施肥の改良は最も效果の現實なるものあり東北地方に於ても此の金肥の消費増加する所以は一面に於て農業の進歩を意味し却て喜ぶべき現象と謂ふを妨げざるべし然れども其の消費の程度に就きては大に考量を要すべく土地は之に放下する資本と勞力の増加する割合に無限に其の生産を増加するものにあらず輒ち報酬遞減の法則を超越することを得ず況んや東北の如く外圍の缺陷を存する農業經營に於てをや。

然らば東北地方の金肥消費率と全國及九州地方の其れとは奈何なる現況に在るか之を左表に徴せん。

金肥消費比較

(農業戸數一戸當)

東北平均	五、〇〇九
全國平均	一〇、八三四

九州平均

六、五九六

福島縣	八、〇一八
宮城縣	四、八一三
岩手縣	二、九四八
青森縣	四、五一七
秋田縣	〇、七七四
山形縣	七、三七七

是に由りて之を觀れば東北六縣の平均は九州平均よりも全國平均よりも遙に下り最多の福島縣に對照するも尙ほ全國平均より著しく寡きを見るを以て東北は現今未だ金肥の消費を抑制すべき程度に在らざることを知るべし而して特に注意を要するは金肥需用の増加に伴ふ不正肥料の輸入の弊を防遏すべく之が取締を嚴密に行ふべきことは是れなり。

第五 牛馬の利用

東北の農業が比較的粗放經營の狀態に在るは外圍の事情に依り其の止むを得ざるものあるべしと雖も農業勞力の供給充分ならざるも其の原因の一たらずんばあらず即ち農業戸數平均の耕地反別の他地方に比し遙かに多きに觀るも之を推知し得れば東北に於ける農業の進歩を促がすには先づ農業勞力の需給を圓滑ならしむるの必要あり是等の事情に替ふるに東北は農耕の勞作に牛馬を利用するを以て勞力經濟上頗る有益なることを痛切に感ずるなり殊に東北は古來畜産の盛なるを以て誇りと爲し農村到る處産馬業を營み蕃殖と農耕とに併用し得るの利便あり然らば現今東北は奈何なる程度に牛馬を利用しつゝあるか左に全國及九州地方との其れを比較せむとす。

農耕用牛馬頭數 (大正二年末現在)

東 北	牛 馬		計
	牛	馬	
二〇、九七四	三七六、九二六	二九七、九〇〇	二九
			七九
			六九

飼養頭數一〇〇に付

全 國 一、〇七三、七六八 一、二一七、一〇〇 二、二九〇、八六八 七七 七六 七六
 九 州 三二七、九一二 三八八、〇九三 七二六、〇〇五 九〇 九三 九二

總飼養頭數中農耕に利用する割合は右の如くにして東北は全國平均に比するも九州の其れに比するも甚だ劣位に在り尙ほ農家戸數に對する農耕用牛馬頭數の割合に就きて比較を試みむか。

農家戸數と農耕用牛馬頭數の比較 (大正二年末現在)

東 北	農 家 戸 數	
	東 北	全 國
九 州	五四二、四二六	五、四四三、七一九
	八七七、八七五	四二
		八二

此の比較に於ては全國に對照すれば稍多きも之を九州に比較すれば遙に及ばず之れ産馬地として名ある東北としては甚だ奇異の現象なるが如きも譯て其の内容を窺ふときは實に次の如き事實を知る輒ち東北地方に於て産馬業を營む者の多くは中産以上の農業者にして下層の小農者にありては之を營むもの幾んど稀なるものゝ如く産馬業は中産以上の階級に居るものゝ副業とも稱すべき状態にして此の統計の表示する所亦事實を語るに足れり更に牛馬耕を爲す面積に就

きて表示すれば左の如し。

牛馬耕を爲す耕地面積の比較 (大正二年)

東	北	計	耕地面積に對する歩合
田	畑	計	
一五三、八〇五、三	二一、八一五、六	一七五、六三〇、九	二二、一
一、七四五、〇七〇、一	一、〇六六、六五一、一	二、八二一、七二一、一	四八、五
四〇〇、二九〇、九	三五七、七五六、二	七五八、〇四七、一	八一、四

此の比較に徴すれば東北地方の牛馬耕は全國平均の半ばにも及ばず更に九州地方に比すれば僅かに其の四分の一に過ぎずして農業上に牛馬を利用する程度の寡少なること寔に想像の外に出ざるなり顧ふに東北の將來は偏農状態を脱して漸次工業の増進を期待せざるべからずして現在に於ても既に其の傾向を現はしつつあるに替ふるも努力の逼迫を來たすは自然の趨勢ならんれば耕地整理の如き或は乾田實施の如き事業と相俟つて將來大に牛馬の利用を進めて努力經濟の調和を圖るを肝要とす今東北六縣各縣別に就きて之を左に掲表すべし。

東北六縣農耕用牛馬頭數 (大正二年末現在)

牛	馬	計	飼養頭數一〇〇に付
計	計	計	計
一七、三三七、〇	一、七、三三七、〇	一七、三三七、〇	一七、八
三、一、一〇、三	三、一、一〇、三	三、一、一〇、三	四〇、六

福島縣	宮城縣	岩手縣	青森縣	秋田縣	山形縣	計
三五五	一、一五一	六、〇七八	六、九四〇	一、一一三	五、三四一	二〇、九七四
五六、〇三二	四五、一二四	六一、三六三	三九、七二二	四八、三七二	二六、三一四	二七六、九二六
一七	三三	二七	三二	一〇	四八	二九
七五	八三	八五	七一	七六	八五	七七
七三	七九	六四	六〇	六八	七五	六九

東北六縣農家戸數と農耕用牛馬頭數の比較 (大正二年末現在)

福島縣	宮城縣	岩手縣	青森縣	秋田縣	山形縣	計
一二三、九一五	八七、九七七	九三、五八六	七〇、六三一	七九、五二三	八六、七九四	五四二、四二六
農家戸數	農家戸數	農家戸數	農家戸數	農家戸數	農家戸數	農家戸數
四五	五三	七二	六六	六二	五六	三五

東北六縣牛馬耕を爲す耕地面積の比較 (大正二年)

福島縣	宮城縣	計	耕地面積に對する歩合
一六、九八二、九	二八、五九四、九	四五、五七七、八	一七、八
三五四、一	二、五一一、四	三五五、六	四〇、六
計	計	計	計
三五五、六	三五五、六	三五五、六	三五

岩手縣	青森縣	秋田縣	山形縣	計
四、八九八、〇	三、八六二、五、〇	四、四三九、一	三、三二六、五、四	一五三、八〇五、三
四、三〇一、一	九、三七九、一	二、九二六、四	二、三三九、五	二一、八一五、六
九、一九九、一	三、八〇〇、四、一	四、四三六、五	三、五、六〇、四、九	一七五、六二〇、九
一、四、二	六、四、一	三、四、二	四、三、〇	二、一、一

三六

第六 農 産

(一) 米 作

米は東北物産中の大宗にして平年作六百八十萬石を算し其の價額約一億千五百萬圓に上り農産額一億六千八百萬圓に對し約七割を占め生産總額二億九千五百萬圓に對し約四割に及ぶ此の故に米作の豊凶は東北の産業經濟に影響すること甚大にして東北の運命は米作の豊凶に依り之を殺活すると謂ふも敢て失當ならずと謂ふべし東北の凶作たるや之を近代の歴史に徴するに天明以後に於ける事實のみにて二十餘回を累ね近くは大正二年の如き其の困憊を極めたることは今尙ほ世人の記憶に新なる事實に屬し文明の今日と雖も凶作の慘狀は寔に寒心すべきものあり況んや交通機關發達せずして有無相通ずること能はざりし孤立經濟時代に於てをや夫の草根を糧とし犬猫の肉を食したるが如きは稀なりとせず財を懷きて空しく餓死せるものさへありしと云ふに至りては救荒の政策之を施すに術なかりしを察知し得べきなり將來と雖も凶作を絶對に避くること

能はざらんも文明の時代に於ては封建の昔時と異なり食料の缺乏は他より之を輸入するの途あるを以て飢饉を現出するが如きことは之れ無かるべし然れども食料の輸入に伴ふ地方の疲弊は勢ひ免れ難き理にして輒ち昔日の如く凶作の影響は直に飢饉を現出するが如きことなく従つて餓殍路に横はるの慘絶悽絶なる歴史を繰返すことなかるべしと雖も其の經濟上に及ぼす打撃たるや深酷なるものあらんされば米作本位の東北の農業經營は米作の減收に伴ふ食料の缺乏を補ふべき方策として副業の發達を圖り或は麥其の他の穀菽及馬鈴薯の如き副作物を栽培し以て可及的食料の輸入を節減するを肝要とす米作と凶作の關係に就きては此の上論述するを止め以下東北地方の米作に關する梗概を擧示せんとす今年に於ける東北六縣の米作付反別と全國及九州との其れを比較すれば左の如し。

米作付反別の比較

東 北	作 付 段 別	百 分 比 例
東	四六八、一六、四	一五、七八
北	二、九六六、八四九、四	一〇〇、〇〇
全 國		

九 州

四五二、四九八、五

一五、二五

之に由りて是を觀れば東北と九州とは全國作付反別に對する歩合幾んど接近數を示し東北は九州に比し稍多し而して東北には尙ほ此の外に所謂通し苗代なるものありて單に苗代に供用するのみに止まり採苗後は閑地として顧みざるもの少くも二萬町歩を下らざるべし更に收穫高の比較を試みれば左の如し。

米作收穫高の比較

東 北	收 穫 高	百 分 比 例
東	六、八〇一、八三二	一三、四三
全 國	五〇、六三五、二三三	一〇〇、〇〇
九 州	八、一五一、五一三	一六、一〇

作付反別の比較に於ては東北は九州に比し稍多きこと前表の示す所の如し然るに收穫高に於ては即ち此に示す如く東北は九州に比し二、六七寡なし之れ東北の收穫率が著しく西南に劣れる所以にして尙ほ之が一段歩平均の收穫高を比較せむか。

米作一反歩平均收穫高の比較

東 北
全 國
九 州

一、四五二
一、七〇七
一、八〇一

四〇

此の比較に徴すれば東北一段歩平均收穫高は全國に比し一割五分、九州に比し一割九分、寡率なり更に年の豊凶と收穫の狀況とを知る爲最近十個年間に於ける東北と全國との比較を示せば左の如し。

米作一段歩收穫量比較

大正三年	福島縣	宮城縣	岩手縣	青森縣	秋田縣	山形縣	平均	全 國
同 二年	一、六四八	一、八六四	一、六三九	一、八〇一	一、七二二	二、〇六二	一、七九六	一、八七九
同 元年	七六八	七五一	九二四	三〇六	一、〇四五	一、五四九	九二四	一、六五九
明治四十四年	一、三二六	一、三八〇	一、三五二	一、五六六	一、四六〇	一、七七九	一、四六五	一、六七二
同 四十二年	一、五三三	一、四五九	一、五九三	一、六一四	一、三四二	一、六一六	一、五一二	一、七三九
同 四十三年	一、二六八	七四三	一、二六六	一、五九四	一、三九八	一、七九二	一、三二〇	一、五八一
同 四十一年	一、四七三	一、四七一	一、四七五	一、五三六	一、六六一	二、〇七四	一、六三〇	一、七八五
同 四十年	一、二四九	一、二三七	一、四六九	一、四一九	一、六一一	一、八三三	一、四七四	一、七七七
同 三十九年	一、三七五	一、二二三	一、五一六	一、五四三	一、五六四	一、八五七	一、五一三	一、六八八
同 三十八年	一、〇〇五	九九六	一、一八五	七九七	一、四〇八	一、六六〇	一、二〇三	一、五九七
	三三九	一八〇	三九三	九五四	一、〇一三	一、二二二	六九七	一、三二五

平 年 一、三三一 一、二二一 一、四二四 一、五〇六 一、四七五 一、七七五 一、四五二 一、七〇七

是に由りて之を觀れば大正三年の如き稀有の豊作と稱する年において東北の一反歩平均收穫高は一石七斗九升六合に過ぎずして全國平均の平年作の一石七斗七合に比し其差僅に八升九合に過ぎずして輒ち全國平均の平年作と東北の豊作と收穫率幾んど接近率なりと謂ふを得べし更に東北六縣と全國との米作付反別及産額の増加率を示せば左の如し。

米作付反別の増加率比較

明治三十八年	全 國	東 北	全 國	東 北
同 三十九年	二、八八一、五四八、五	四六一、五六七、三	一〇〇	一〇〇
同 四十年	二、八九八、七九二、九	四六二、五二四、六	一〇一	一〇〇
同 四十一年	二、九〇六、〇九一、九	四六三、八七八、五	一〇一	一〇一
同 四十二年	二、九二二、三八七、八	四六五、一五六、四	一〇一	一〇一
同 四十三年	二、九三八、〇七三、八	四六六、三二四、六	一〇二	一〇一
同 四十四年	二、九四九、四三九、九	四六八、六五〇、九	一〇二	一〇二
大正元年	二、九七三、〇〇九、〇	四六九、一七〇、一	一〇三	一〇二
同 二年	三、〇〇三、〇五二、九	四七一、四八五、〇	一〇四	一〇二
	三、〇二九、七〇五、二	四七三、五九六、五	一〇五	一〇三

四一

大正三年

三、〇三三、三六八、五

四七四、六五八、二

一〇五

一〇三

四二

此の統計に依れば全國に於ては十個年に十五萬一千八百二十町歩即ち五分の増加にして東北に於ては十個年に一萬三千九十町九反歩即ち三分の増加なりとす尙ほ東北六縣に於ける米作付反別及收穫高を各縣別に表章すれば左の如し。

東北六縣米作付段別累年比較

年	福島縣	宮城縣	岩手縣	青森縣	秋田縣	山形縣	計
大正三年	九三、三六九	八三、五三七	五〇、五四八	六〇、四四七	九七、八一九	八七、七六七	四七四、六五八、二
同二年	九三、〇八五	八三、三七一	四九、五七二	六〇、四六六	九七、五〇五	八七、五三三	四七三、五九六、五
同元年	九三、四六七	八三、三三四	四九、四六〇	五九、九三三	九七、八九六	八六、九四〇	四七一、四八五、〇
明治四十四年	九三、二八一	八三、四四五	四九、六二二	五九、〇八三	九七、六七四	八六、三三二	四六九、一七〇、一
同四十三年	九三、六五〇	八三、七四〇	四九、六二四	五八、七三三	九七、六七一	八六、六二七	四六八、六五〇、九
同四十二年	九四、〇八二	八三、六八八	四九、六三六	五八、六九七	九七、四四一	八五、七三六	四六三、三四六
同四十一年	九三、六七七	八三、四九七	四九、四九二	五八、一五〇	九七、三〇六	八五、三三九	四六一、五八四
同四十年	九三、六七一	八三、八〇五	四九、八八〇	五七、七三三	九七、五三二	八五、五三〇	四六三、八七五
同三十九年	九三、九六二	八三、八二二	四九、二一九	五七、六二八	九七、四〇七	八五、六三三	四六二、五三六
同三十八年	九三、〇六八	八三、八八六	四九、五八二	五七、九五七	九七、四六八	八五、六六二	四六一、五七三
平年	九四、七三七	八三、八九五	四九、六七八	五八、七五五	九七、六三六	八六、四八七	四六二、二六八

東北六縣米收穫高累年比較

年	福島縣	宮城縣	岩手縣	青森縣	秋田縣	山形縣	計
大正三年	一、七五七、〇三〇	一、五七六、六九六	八二〇、九二九	一、〇五一、六四三	一、六四二、九七三	一、〇九〇、七〇七	八、三三七、〇三六
大正二年	一、七〇〇、〇〇〇	一、五七六、六九六	八二〇、九二九	一、〇五一、六四三	一、六四二、九七三	一、〇九〇、七〇七	八、三三七、〇三六
大正元年	一、五八一、一八一	一、三三三、三三三	七〇二、二二二	八七〇、七〇七	一、三〇一、一〇一	一、三三三、三三三	七、〇六二、一〇一
明治四十四年	一、五八一、一八一	一、三三三、三三三	七〇二、二二二	八七〇、七〇七	一、三〇一、一〇一	一、三三三、三三三	七、〇六二、一〇一
同四十三年	一、〇一〇、一〇一	九〇〇、〇〇〇	六三三、三三三	九三三、三三三	一、三三三、三三三	一、三三三、三三三	六、二二二、二二二
同四十二年	一、三六六、三〇〇	一、二八六、二八一	七〇七、〇七〇	九〇〇、〇〇〇	一、二八六、二八一	一、二八六、二八一	六、〇〇〇、〇〇〇
同四十一年	一、二七九、一七一	九〇六、〇八二	七〇七、〇七〇	八三三、三三三	一、二八六、二八一	一、二八六、二八一	六、〇〇〇、〇〇〇
同四十年	一、二八六、二八一	九〇六、〇八二	七〇七、〇七〇	八三三、三三三	一、二八六、二八一	一、二八六、二八一	六、〇〇〇、〇〇〇
同三十九年	一、二八六、二八一	九〇六、〇八二	七〇七、〇七〇	八三三、三三三	一、二八六、二八一	一、二八六、二八一	六、〇〇〇、〇〇〇
同三十八年	一、二八六、二八一	九〇六、〇八二	七〇七、〇七〇	八三三、三三三	一、二八六、二八一	一、二八六、二八一	六、〇〇〇、〇〇〇
平年	一、二八六、二八一	九〇六、〇八二	七〇七、〇七〇	八三三、三三三	一、二八六、二八一	一、二八六、二八一	六、〇〇〇、〇〇〇

(イ) 米作改良

米産額は年の豊凶に依り増減を免れずと雖も屢次の凶歉は當業者に刺戟を與へたること深甚なるものありて近來漸く米作の改良に意を注ぐに至り耕種法の改良殊に從來の通弊たりし晩稻を作付して多量の收穫を僥倖せむとするの愚をなすもの尠く早中晩各適度の歩合を以て作付するの安全なるを自覺せしもの、如し輒ち東北の凶歉たるや農業者に大なる苦痛を與へたと同時に亦農業者を

刺戟して舊來の因襲を打破し農業の進歩を促したること尠少にあらざるべし尙ほ夫の通し苗代の如きは宜しく之を利用して生産の増加を圖るを得策と認む。

(ロ) 輸出米

從來東北米は概して乾燥不充分なりしと調製の粗雑なりし爲變質腐敗を來たし易く市場の排斥を被むり聲價揚らざりしこと久かりき就中秋田米の如き中央市場に於ては秋田の腐れ米と稱し頗る劣悪のものとして取扱はれ従つて運輸の便開くるも取引の増加を見る能はざりしが近年各縣相踵きて之が改良施設を爲し明治三十八年以降宮城、山形、秋田、青森に於ては相踵きて産米検査並輸出米検査を施行するに至り爾來米質の改良俵裝の齊一有效果見るべきものありて市場の聲價漸く揚らんとするの氣運に向へり。

米の輸出高は年の豊凶市場取引の景況の如何に依り消長ありと雖も現今輸出米検査を施行する宮城外三縣の狀況に徴して推計するときは東北を通じて約百二十萬石と見は大差なかるべく平年收穫高六百八十萬石より現住人口一人の消費高を一石と見積れる總消費高五百六十萬石を控除したる殘額は百二十萬石に

して右の輸出推計額と相等しき數を表示するも更に他の地方より輸入する内國米及外國米は少なくとも五十萬石を下らざるべければ實際の消費高は一人平均一石を超ゆること疑を容れず殊に濁酒密造の如き弊風の存するに伴ひ米の消費は想像以外に多きものゝ如し前述の狀況を綜合して替ふるときは將來東北六縣に於ける米の消費高は尙ほ大に節減の餘地なきにあらざるべし今宮城外三縣に於ける最近六ヶ年の輸出米高を示せば左の如し。

宮城外三縣輸出米高累年比較

	宮城縣	青森縣	秋田縣	山形縣	計
大正二年	二二六、三八九	八三、二四八	三一、八一三	四三九、八七四	一、〇七一、三二四
同元	三〇一、〇二九	一五九、五二〇	三五八、二二六	四七八、四二七	一、二九七、二〇二
明治四十四年	三一九、八九四	二〇六、一七九	二五六、四二二	四九九、一七一	一、二八一、六六七
同四十四年	一三七、五八〇	一四六、一九六	三三三、二五二	五四〇、三三五	一、一五七、三六三
同四十二年	二八九、〇六九	一一四、四五七	二五〇、七四七	三二七、二四〇	九七一、五一一
同四十一年	二二六、六四二	七九、〇八九	二五九、三三八	三六三、九三三	九二九、〇〇二
平均	二五一、七六七	一一一、四四八	二九四、九六六	四三九、八三〇	一、一一八、〇一一

(二) 麥作

東北地方は從來他の地方に比し麥作を爲すこと甚だ尠なし之れ氣候の關係上

の内容に於ては秋田、青森の二縣僅に増加を示すのみ他の四縣は孰れも減少の傾向を示せり而して作付一反歩平均の收穫高を比較すれば左の如し。

麥作一段歩平均收穫高比較

東北	一、一六四
全國	一、二三六
九州	八七六

此の比較に依れば東北は全國平均に比すれば稍寡なきも九州平均に比すれば收穫率多し素より孰れも各地方の平均にして之を以て直に東北が西南に優れりと目すること能はざるも東北に麥作の有望なること疑を容れず今東北各縣に就きて其の收穫率を比較すれば左の如し。

東北六縣麥作一反歩平均收穫高累年比較

大正三年	福島縣	宮城縣	岩手縣	青森縣	秋田縣	山形縣	平均
同二年	一、四二九	二、〇六四	一、〇一八	一、一八三	五九八	一、〇一一	一、三七四
同元年	一、五八六	二、一六四	九八二	一、二三四	七〇〇	一、〇三七	一、四三八
平均	一、三九四	一、七二五	八五二	九四八	六三〇	九二二	一、二〇五

明治四十四年	一、三八三	一、五二一	七二四	九四七	六〇九	九三九	一、一〇八
同四十二年	一、四三三	一、五六五	八〇八	一、一三三	七〇二	一、〇〇九	一、一五九
同四十一年	一、二七二	一、四七四	六六三	一、〇四五	六九九	九五八	一、〇五八
同四十年	一、三一〇	一、二八九	七〇五	一、〇五三	七六一	九五四	一、〇四四
平均	一、三七五	一、六六二	一、〇〇七	一、二八九	六六六	一、〇二五	一、二六五
同四十年	一、三八〇	一、五九八	八〇四	一、〇五九	七五九	九六一	一、一六四

東北は九州地方の如く二毛作として田地に作付すること多く行はれ難きも之を畑に作付することは將來尙ほ大に擴張する餘地あるべし即現今の耕地反別に對する麥作反別の歩合を比較するときは全國は三割一分九州は四割五分にして東北は僅に一割三分に過ぎざるに觀るも明かなりされば東北地方に於ては今後一層麥作の奨励に勵むべきなり。

(三) 食用農産物

(イ) 大豆、小豆、粟、稗、蕎麥、馬鈴薯

米麥以外の食用農産物中大豆、小豆、粟、稗、蕎麥の五種に就きて大正二年の事實に依り東北と全國及九州の比較を試みれば左の如し。

作付反別比較

作物	全 國		九 州		東 北		九 州	
	石	町	石	町	石	町	石	町
大豆	四七五、二八四	一	七六、七九三	三	一〇六、二三三	〇	一六、一六	二二、三五
小豆	一四〇、九九七	九	一三、九一〇	二	一六、八九二	四	九、八七	一一、九八
粟	一七九、四五五	九	八五、四六五	三	二九、二八八	四	四七、六二	一六、三二
稗	五五、〇五七	〇	一、五二一	六	二八、〇三四	四	二、七六	五〇、九七
蕎麥	一五一、四九九	七	三三、五六七	〇	二六、三五七	四	二二、一五	一七、三九

收穫高比較

作物	全 國		九 州		東 北		九 州	
	石	町	石	町	石	町	石	町
大豆	二、九九三	〇九五	六一〇	二七二	五二二	四一〇	二〇	三九
小豆	六〇一	二八八	九〇	二八八	六五	四七三	一五	〇二
粟	二、一四六	六七三	一、四二七	八六四	九三	五三一	六六	五一
稗	五〇六	八〇八	一七	二一六	一九五	八八九	三	三九
蕎麥	一、〇四〇	七三九	二九二	八七八	一一一	八八二	二八	一四

此の比較に依れば大豆、小豆、蕎麥の三種は東北西南孰れも作付に著しき懸隔なきものゝ如くにして粟は西南に多く稗は東北に多く作付するを見る更に之れが平均一反歩當の收穫高を比較せむか

全 國	九 州	東 北	九 州
七五五	六六九	一、一三〇	一、一三三
七九四	六四九	一、六八〇	一、一三一
			七六三
			八七二

之に依りて是を觀れば東北は全國平均及九州に比し各種農産物概して收穫率の寡きことを知る而して更に東北に就きて平年作と大正二年の凶作に於ける比較を見るときは一反歩平均に於て實に左の如き數を現はし單り米作のみならず此等の作物も凶作を免れざりしなり。

東北六縣農産物平年作と凶作との收穫高比較

作物	平 年		大正二年(凶作)	
	石	町	石	減
大豆	七三三	三	四九二	二四一
小豆	五六一	一	三八七	一七一
粟	六九〇	一	三一九	三七一
稗	一、三三三	一	六九八	六一五
蕎麥	六八八	一	四六二	二二六

尙ほ東北六縣に於ける右五種農産物の作付反別及收穫高の累年比較を示せば左表の如し。

東北六縣農産物作付反別收穫高累年比較
大豆作付反別

大正二年	同元	明治四十四年	同四十四年	同四十二年	同四十一年	平
福島縣	三三〇四七	三三〇四七	三三〇四七	三三〇四七	三三〇四七	三三〇四七
宮城縣	一九五九四	一九五九四	一九五九四	一九五九四	一九五九四	一九五九四
岩手縣	二六三九三	二六三九三	二六三九三	二六三九三	二六三九三	二六三九三
青森縣	一三五五三	一三五五三	一三五五三	一三五五三	一三五五三	一三五五三
秋田縣	一二七九八	一二七九八	一二七九八	一二七九八	一二七九八	一二七九八
山形縣	一〇九四三	一〇九四三	一〇九四三	一〇九四三	一〇九四三	一〇九四三
計	一〇六三三〇	一〇六三三〇	一〇六三三〇	一〇六三三〇	一〇六三三〇	一〇六三三〇

大豆收穫高

大正二年	同元	明治四十四年	同四十四年	同四十二年	同四十一年	平
福島縣	一七三三七	一七三三七	一七三三七	一七三三七	一七三三七	一七三三七
宮城縣	六六九七	六六九七	六六九七	六六九七	六六九七	六六九七
岩手縣	八四一四	八四一四	八四一四	八四一四	八四一四	八四一四
青森縣	四九七三	四九七三	四九七三	四九七三	四九七三	四九七三
秋田縣	七四一〇	七四一〇	七四一〇	七四一〇	七四一〇	七四一〇
山形縣	七二二五	七二二五	七二二五	七二二五	七二二五	七二二五
計	五三三三〇	五三三三〇	五三三三〇	五三三三〇	五三三三〇	五三三三〇

小豆作付反別

大正二年	同元	明治四十四年	同四十四年	同四十二年	同四十一年	平
福島縣	三二四八六	三二四八六	三二四八六	三二四八六	三二四八六	三二四八六
宮城縣	二八五七	二八五七	二八五七	二八五七	二八五七	二八五七
岩手縣	三三三三	三三三三	三三三三	三三三三	三三三三	三三三三
青森縣	一四〇八	一四〇八	一四〇八	一四〇八	一四〇八	一四〇八
秋田縣	二九四七	二九四七	二九四七	二九四七	二九四七	二九四七
山形縣	二七四五	二七四五	二七四五	二七四五	二七四五	二七四五
計	一六八二四	一六八二四	一六八二四	一六八二四	一六八二四	一六八二四

小豆收穫高

大正二年	同元	明治四十四年	同四十四年	同四十二年	同四十一年	平
福島縣	一八一六	一八一六	一八一六	一八一六	一八一六	一八一六
宮城縣	八五〇	八五〇	八五〇	八五〇	八五〇	八五〇
岩手縣	九〇六	九〇六	九〇六	九〇六	九〇六	九〇六
青森縣	五三九	五三九	五三九	五三九	五三九	五三九
秋田縣	一〇五七	一〇五七	一〇五七	一〇五七	一〇五七	一〇五七
山形縣	一三六六	一三六六	一三六六	一三六六	一三六六	一三六六
計	六五四三	六五四三	六五四三	六五四三	六五四三	六五四三

粟作付段別

大正二年	同元	明治四十四年	同四十四年	同四十二年	同四十一年	平均
福島縣	一七三六二	一八六六六	一七五〇〇	一八三九九	一六五五四	一八二五九
宮城縣	六六三七	六八一	六四三	六八三	六八九	六二三
岩手縣	一三九三〇	一四一七二	一三九六九	一四四四六	一四一三三	一四三六〇
青森縣	八七七一	八三六七	八五六六	八五四九	八三四一	八七三二
秋田縣	三三三三	三三三三	三三三三	三三三三	三三三三	三三三三
山形縣	九三三六	一〇三六七	九三三六	九三三六	九三三六	九三三六
計	二九三六八	三〇三六七	二九三六八	二九三六八	二九三六八	二九三六八

粟收穫高

大正二年	同元	明治四十四年	同四十四年	同四十二年	同四十一年	平均
福島縣	九四四	一五二六	一三八三	一六〇八	一四六五	一三三七
宮城縣	二五二六	三六三	四〇八	四六〇	四三三	三二一
岩手縣	四三三	五九六	九七	一〇六	一〇七	六二
青森縣	一八五九	七三九	六二八	五五三	五八四	六〇九
秋田縣	二九四	一七一	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七
山形縣	五七三	六〇一	六七〇	六四四	六四四	六六七
計	九三三	一七〇	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七

稗作付段別

大正二年	同元	明治四十四年	同四十四年	同四十二年	同四十一年	平均
福島縣	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
宮城縣	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
岩手縣	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
青森縣	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
秋田縣	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
山形縣	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
計	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇

稗收穫高

大正二年	同元	明治四十四年	同四十四年	同四十二年	同四十一年	平均
福島縣	三二二	三二二	三二二	三二二	三二二	三二二
宮城縣	三二二	三二二	三二二	三二二	三二二	三二二
岩手縣	三二二	三二二	三二二	三二二	三二二	三二二
青森縣	三二二	三二二	三二二	三二二	三二二	三二二
秋田縣	三二二	三二二	三二二	三二二	三二二	三二二
山形縣	三二二	三二二	三二二	三二二	三二二	三二二
計	三二二	三二二	三二二	三二二	三二二	三二二

蕎麥作付反別

年	福島縣	宮城縣	岩手縣	青森縣	秋田縣	山形縣	計
大正二年	四,三三六	一,三〇六	七,五七〇	九,〇七〇	一,六四一	二,三三三	二六,五七〇
同元	四,六七〇	一,三〇五	七,六〇七	四,九六六	一,六五七	二,三三三	二六,五七〇
明治四十四年	四,六二四	一,二八二	七,六七五	八,〇三〇	一,五七四	二,三〇六	二六,五七〇
同四十二年	四,八一九	一,二五四	七,六六三	八,三三三	一,五八六	二,四一四	二六,五七〇
同四十一年	五,〇五六	一,〇七〇	七,七〇七	八,三三三	一,五九一	二,四一四	二六,五七〇
同四十年	五,三七〇	一,〇七〇	七,七〇七	八,三三三	一,五九一	二,四一四	二六,五七〇
同三十九年	五,三七〇	一,〇七〇	七,七〇七	八,三三三	一,五九一	二,四一四	二六,五七〇
同三十八年	四,八三二	一,〇七〇	七,七〇七	八,三三三	一,五九一	二,四一四	二六,五七〇
平均	四,八三二	一,〇七〇	七,七〇七	八,三三三	一,五九一	二,四一四	二六,五七〇

蕎麥收穫高

年	福島縣	宮城縣	岩手縣	青森縣	秋田縣	山形縣	計
大正二年	三〇,六四九	三,三九六	四〇,三三三	三三,四三三	一〇,五五六	一五,二〇三	一二八,八三〇
同元	三〇,〇〇一	三,三九六	四〇,三三三	三三,四三三	一〇,五五六	一五,二〇三	一二八,八三〇
明治四十四年	三〇,〇〇一	三,三九六	四〇,三三三	三三,四三三	一〇,五五六	一五,二〇三	一二八,八三〇
同四十二年	二九,〇九八	三,三九六	四〇,三三三	三三,四三三	一〇,五五六	一五,二〇三	一二八,八三〇
同四十一年	四〇,四三六	一〇,七三七	五〇,八〇二	四〇,一八〇	九,八八五	一三,一一五	一八二,〇三二
同四十年	四〇,四三六	一〇,七三七	五〇,八〇二	四〇,一八〇	九,八八五	一三,一一五	一八二,〇三二
同三十九年	四〇,四三六	一〇,七三七	五〇,八〇二	四〇,一八〇	九,八八五	一三,一一五	一八二,〇三二
同三十八年	四〇,四三六	一〇,七三七	五〇,八〇二	四〇,一八〇	九,八八五	一三,一一五	一八二,〇三二
平均	四〇,四三六	一〇,七三七	五〇,八〇二	四〇,一八〇	九,八八五	一三,一一五	一八二,〇三二
大正二年	六六〇	八六六	五九五	六九五	五八二	六二二	六六八
同元	六六〇	八六六	五九五	六九五	五八二	六二二	六六八
明治四十四年	六六〇	八六六	五九五	六九五	五八二	六二二	六六八
同四十二年	六六〇	八六六	五九五	六九五	五八二	六二二	六六八
同四十一年	四一,七七一	一〇,三三三	五〇,八〇二	四〇,一八〇	九,八八五	一三,一一五	一八二,〇三二
同四十年	四一,七七一	一〇,三三三	五〇,八〇二	四〇,一八〇	九,八八五	一三,一一五	一八二,〇三二
同三十九年	四一,七七一	一〇,三三三	五〇,八〇二	四〇,一八〇	九,八八五	一三,一一五	一八二,〇三二
同三十八年	四一,七七一	一〇,三三三	五〇,八〇二	四〇,一八〇	九,八八五	一三,一一五	一八二,〇三二
平均	四一,七七一	一〇,三三三	五〇,八〇二	四〇,一八〇	九,八八五	一三,一一五	一八二,〇三二
大正二年	六六〇	八六六	五九五	六九五	五八二	六二二	六六八
同元	六六〇	八六六	五九五	六九五	五八二	六二二	六六八
明治四十四年	六六〇	八六六	五九五	六九五	五八二	六二二	六六八
同四十二年	六六〇	八六六	五九五	六九五	五八二	六二二	六六八
同四十一年	四一,七七一	一〇,三三三	五〇,八〇二	四〇,一八〇	九,八八五	一三,一一五	一八二,〇三二
同四十年	四一,七七一	一〇,三三三	五〇,八〇二	四〇,一八〇	九,八八五	一三,一一五	一八二,〇三二
同三十九年	四一,七七一	一〇,三三三	五〇,八〇二	四〇,一八〇	九,八八五	一三,一一五	一八二,〇三二
同三十八年	四一,七七一	一〇,三三三	五〇,八〇二	四〇,一八〇	九,八八五	一三,一一五	一八二,〇三二
平均	四一,七七一	一〇,三三三	五〇,八〇二	四〇,一八〇	九,八八五	一三,一一五	一八二,〇三二

(ロ) 馬鈴薯

馬鈴薯は東北唯一の適産と稱することを得べし作付反別逐年増加する傾向にして今大正二年の作付反別及收穫高に就きて東北と全國及九州の比較を試みれば左の如し。

馬鈴薯作付反別收穫高比較

作付反別	收穫高	百分比例	
		作付反別	收穫高
東 北	一九,七二一 ^町	四八,四八二	八七六
全 國	七五,八九五 ^六	一八九,七〇〇	四二二
九 州	二,七二八 ^一	八,六六〇	七二〇

其の收穫率に於て全國平均に比して下ならずと雖も九州平均に比すれば遙に及ばず將來尙ほ栽培法の改良を要するものあるべし而して大正二年の凶作に際しては各種農産物幾んど減收を免れざりしが唯だ馬鈴薯に限りて平年と異ならざる收穫を見たるに替ふるも氣候上に缺陷を存する東北に於ては最も安全なる農作物として馬鈴薯を擇ばざるを得ず輒ち馬鈴薯は副食料品として適する而已ならず更に澱粉又は酒精等の原料に供するを得べく更に其の搾屑を養豚の飼料に充つるが如き最も妙なりされば奈何に多く栽培するも生産過剰の憂なかるべ

きを以て將來大に之れが栽培を増加すべきなり東北六縣の作付反別及收穫高の累年比較は左の如し。

東北六縣馬鈴薯作付反別收穫高累年比較

作付反別

大正二年	福島縣	宮城縣	岩手縣	青森縣	秋田縣	山形縣	計
大正元年	三八、五五	三六、六三	二八、六七	五〇、一八	三三、八一	二〇、一七	一九七、一五
明治四十四年	四一、七〇	三三、四六	二七、六七	四八、四九	二二、〇九	一七、三六	一九二、三三
明治四十四年	三八、四四	三三、七五	二七、六五	四七、九六	二二、四九	一七、〇九	一九四、一七
明治四十四年	四一、四〇	三三、六六	二七、八一	四八、七五	二二、五一	一七、〇九	一九四、七三
明治四十二年	四一、四一	三三、六一	二七、八一	四八、五五	二二、三四	一七、〇九	一九四、三三

收穫高

大正二年	福島縣	宮城縣	岩手縣	青森縣	秋田縣	山形縣	計
大正元年	六三、三六	一〇、六一	六、〇〇	一一、五九	六、〇七	四、七三	八八、〇七
明治四十四年	一〇、三七	九、〇七	六、〇〇	一一、〇〇	六、〇七	四、七三	八八、〇七
明治四十四年	一一、二六	九、〇七	六、〇〇	一一、〇〇	六、〇七	四、七三	八八、〇七
明治四十四年	一一、二六	九、〇七	六、〇〇	一一、〇〇	六、〇七	四、七三	八八、〇七
明治四十二年	一一、二六	九、〇七	六、〇〇	一一、〇〇	六、〇七	四、七三	八八、〇七

(一) 穀菽雜類

東北六縣に於ける穀菽雜類の作付反別は四千九百六十餘町歩にして比年幾んど増減なきもの、如し今其主なるものに就て大正二年の實數を示せば左の如し。

東北六縣穀菽雜類作付反別收穫高 (大正二年)

作付反別

福島縣	宮城縣	岩手縣	青森縣	秋田縣	山形縣	計
三五四、九	二四四、八	二四六、一	一九八、〇	二〇五、六	五二二、四	一、七七、八
一五四、五	一一、六	四、二	九、四	二四、〇	一、八	二〇五、五
三〇九、六	一三二、九	四五三、五	八四、四	一五三、五	一七八、一	一、三二、〇
五九〇、九	三三六、七	二七〇、九	一九三、〇	一三九、五	一四一、九	一、六七、九
計	一、四〇九、九	七二六、〇	九七四、七	四八四、八	五二二、六	八四四、二

收穫高

福島縣	宮城縣	岩手縣	青森縣	秋田縣	山形縣	計
四、一三五	二、七〇五	二、〇二五	一、六八五	二、〇〇九	四、五六二	一七、一一一
一、六六九	八三	二五	八一	一九九	二一	二、〇七八
二、一二九	八九七	三、六二二	五八五	九三五	一、三二二	九、四八〇
計	一三、七六九	四、一四九	三、〇九九	一、六六六	一、三七三	二五、七九七

(二) 蔬菜類

東北六縣の蔬菜類の作付反別は約四萬千町歩にして年産額約一千万圓に上り産額の最も多きは福島縣の二百九十萬圓にして秋田縣の百六十八萬圓宮城縣の百六十六萬圓山形縣の百六十三萬圓之に次ぎ岩手青森の二縣は百二十萬圓内外を算す而して東北の氣候風土は蔬菜の栽培に好く適するが故に各地に良好なるものを産す之れが販路は主として其の地方の市街地、鑛山又は例日市場等に需ぐに過ぎず近年北海道方面に輸販するものあるに至れるも未だ極めて尠なきものゝ如し將來栽培法の改良を圖ると共に一面共同販賣の方法を探れば販路を擴張すること敢て難きに非ざるべし今東北六縣に於ける最近五個年平均の作付反別及産額を示せば左の如し。

東北六縣蔬菜類作付反別及産額 (自明治四十二年至大正二年五個年平均)

蔬菜類	福島縣	宮城縣	岩手縣	青森縣	秋田縣	山形縣	計
甘藷	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	6,600
青藷	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	6,600
蘿蔔	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	6,600
計	3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	19,800

蔬菜類	福島縣	宮城縣	岩手縣	青森縣	秋田縣	山形縣	計
胡蘿蔔	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	6,600
漬菜	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	6,600
甘藷	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	6,600
青藷	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	6,600
蘿蔔	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	6,600
計	5,500	5,500	5,500	5,500	5,500	5,500	33,000

此の比較に觀れば菜種、楮、柵柳の如き東北は全國及九州に比し收穫高多く其の他のものにおいて麻類の外孰れも著しく劣らざるものゝ如し要するに前記の特種農産物は主として工業原料に供すべき需用多きものなるを以て將來生産の増加を圖る上に於て有望なるべし今大正二年に於ける東北各縣の作付反別及産額を示せば左表の如し。

東北六縣特種農産物作付反別及産額 (大正二年)

作付段別	種					
	菜種	楮	柵柳	藍	麻	計
福島縣	1,177.8					
宮城縣	10.0					
岩手縣	3.7					
青森縣	9.9					
秋田縣	6.5					
山形縣	6.8					
計	3,230.7					

收穫高	種					
	菜種	楮	柵柳	藍	麻	計
福島縣	3,211.1					
宮城縣	4,100.0					
岩手縣	9,863.3					
青森縣	1,001.7					
秋田縣	3,440.0					
山形縣	1,299.9					
計	22,115.9					

者の状態に依り專業必ずしも排すべからざるも要するに普通農業、蠶絲業等に於ける耕地の使用勞力の分配と調和を失せざる程度に於て栽培するを得策とすべし今東北六縣に於ける果實の産額を示せば左表の如し。

東北六縣果實産額累年比較

縣	大正二年		同元年		明治四十四年		同四十二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
福島縣	1,335,777	10,000,000	1,025,000	8,273,000	1,211,250	10,000,000	1,335,777	10,000,000
宮城縣	361,277	7,737,000	500,800	10,155,000	588,000	11,564,000	540,000	11,857,000
岩手縣	1,000,000	10,000,000	1,200,000	12,000,000	1,500,000	15,000,000	1,800,000	18,000,000
青森縣	1,000,000	10,000,000	1,200,000	12,000,000	1,500,000	15,000,000	1,800,000	18,000,000
秋田縣	1,000,000	10,000,000	1,200,000	12,000,000	1,500,000	15,000,000	1,800,000	18,000,000
山形縣	1,000,000	10,000,000	1,200,000	12,000,000	1,500,000	15,000,000	1,800,000	18,000,000
計	6,828,333	68,283,333	8,125,000	81,250,000	9,750,000	97,500,000	11,675,000	116,750,000

梨

縣	大正二年		同元年		明治四十四年		同四十二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
福島縣	1,335,777	10,000,000	1,025,000	8,273,000	1,211,250	10,000,000	1,335,777	10,000,000
宮城縣	361,277	7,737,000	500,800	10,155,000	588,000	11,564,000	540,000	11,857,000
岩手縣	1,000,000	10,000,000	1,200,000	12,000,000	1,500,000	15,000,000	1,800,000	18,000,000
青森縣	1,000,000	10,000,000	1,200,000	12,000,000	1,500,000	15,000,000	1,800,000	18,000,000
秋田縣	1,000,000	10,000,000	1,200,000	12,000,000	1,500,000	15,000,000	1,800,000	18,000,000
山形縣	1,000,000	10,000,000	1,200,000	12,000,000	1,500,000	15,000,000	1,800,000	18,000,000
計	6,828,333	68,283,333	8,125,000	81,250,000	9,750,000	97,500,000	11,675,000	116,750,000

葡萄

縣	大正二年		同元年		明治四十四年		同四十二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
福島縣	1,335,777	10,000,000	1,025,000	8,273,000	1,211,250	10,000,000	1,335,777	10,000,000
宮城縣	361,277	7,737,000	500,800	10,155,000	588,000	11,564,000	540,000	11,857,000
岩手縣	1,000,000	10,000,000	1,200,000	12,000,000	1,500,000	15,000,000	1,800,000	18,000,000
青森縣	1,000,000	10,000,000	1,200,000	12,000,000	1,500,000	15,000,000	1,800,000	18,000,000
秋田縣	1,000,000	10,000,000	1,200,000	12,000,000	1,500,000	15,000,000	1,800,000	18,000,000
山形縣	1,000,000	10,000,000	1,200,000	12,000,000	1,500,000	15,000,000	1,800,000	18,000,000
計	6,828,333	68,283,333	8,125,000	81,250,000	9,750,000	97,500,000	11,675,000	116,750,000

櫻桃

縣	大正二年		同元年		明治四十四年		同四十二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
福島縣	1,335,777	10,000,000	1,025,000	8,273,000	1,211,250	10,000,000	1,335,777	10,000,000
宮城縣	361,277	7,737,000	500,800	10,155,000	588,000	11,564,000	540,000	11,857,000
岩手縣	1,000,000	10,000,000	1,200,000	12,000,000	1,500,000	15,000,000	1,800,000	18,000,000
青森縣	1,000,000	10,000,000	1,200,000	12,000,000	1,500,000	15,000,000	1,800,000	18,000,000
秋田縣	1,000,000	10,000,000	1,200,000	12,000,000	1,500,000	15,000,000	1,800,000	18,000,000
山形縣	1,000,000	10,000,000	1,200,000	12,000,000	1,500,000	15,000,000	1,800,000	18,000,000
計	6,828,333	68,283,333	8,125,000	81,250,000	9,750,000	97,500,000	11,675,000	116,750,000

計	山形縣	秋田縣	青森縣	岩手縣	宮城縣	福島縣	大正二年		同元年		明治四十四年		同四十四年		同四十二年	
							數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
	1,210	1,158	1,100	900	300	1,000	1,100	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	1,158	1,100	1,000	900	300	1,000	1,100	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

榎 梓

計	山形縣	秋田縣	青森縣	岩手縣	宮城縣	福島縣	大正二年		同元年		明治四十四年		同四十四年		同四十二年	
							數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
	1,210	1,158	1,100	900	300	1,000	1,100	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	1,158	1,100	1,000	900	300	1,000	1,100	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

干 柿

計	山形縣	秋田縣	青森縣	岩手縣	宮城縣	福島縣	大正二年		同元年		明治四十四年		同四十四年		同四十二年	
							數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
	1,210	1,158	1,100	900	300	1,000	1,100	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	1,158	1,100	1,000	900	300	1,000	1,100	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

栗

計	山形縣	秋田縣	青森縣	岩手縣	宮城縣	福島縣	大正二年		同元年		明治四十四年		同四十四年		同四十二年	
							數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
	1,210	1,158	1,100	900	300	1,000	1,100	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	1,158	1,100	1,000	900	300	1,000	1,100	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

大正四年十月十四日印刷
大正四年十月十七日發行

東北振興會

發行者

東京市牛込區市谷柳町三十五番地

吉池慶正

印刷者

東京市神田區美土代町二丁目一番地

島連太郎

印刷所

東京市神田區美土代町二丁目一番地

三秀舍

終